

# パソコンのレベルアップを目指す 我が署の取り組みについて

川内営林署 販売係 ○ 昆野 範晃  
 収穫係 葛西 真規  
 会計係 福田 守

## 1 はじめに

効率的な事務処理を行う上で、パソコン等OA機器の活用が必要不可欠となっている。ここ数年、フロッピーディスクにより業務検討資料等の照会が行われているところであり、署においてはパソコンを使用しなければ業務がはかどらない実態にある。

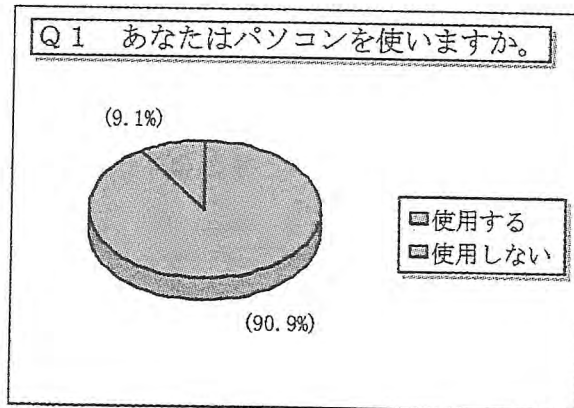
しかしながら、当署の現状を見るとパソコンを活用して業務を進めている者は、15名中10名程度（常時使用者2名）となっており、また、パソコンを使用するにあたっては”「数値の入力」のみ”に使用している者が大半を占めている。

そこで、この状況を改善すべくアンケート調査を実施、これをもとに署全体の利用率の拡大とレベルアップを目指し職場内研修を行った結果について説明する。

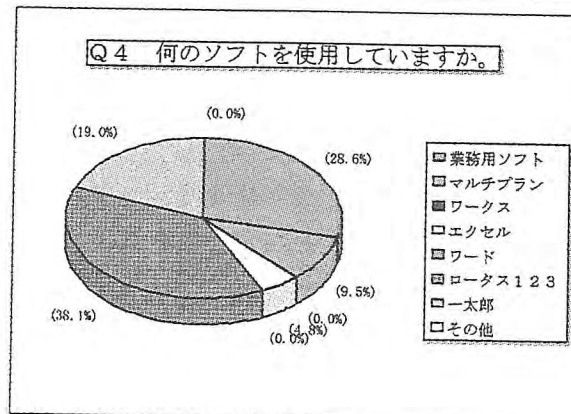
## 2 職場内研修の実施

6月下旬に職場内研修におけるアンケート調査を実施した。  
 アンケートの集約結果は、次のとおりである。

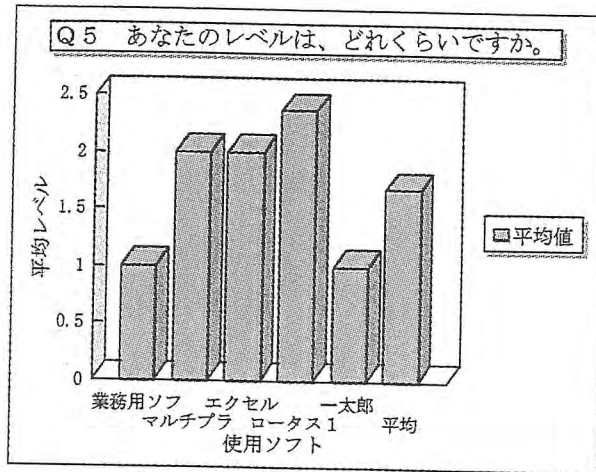
<アンケート1>



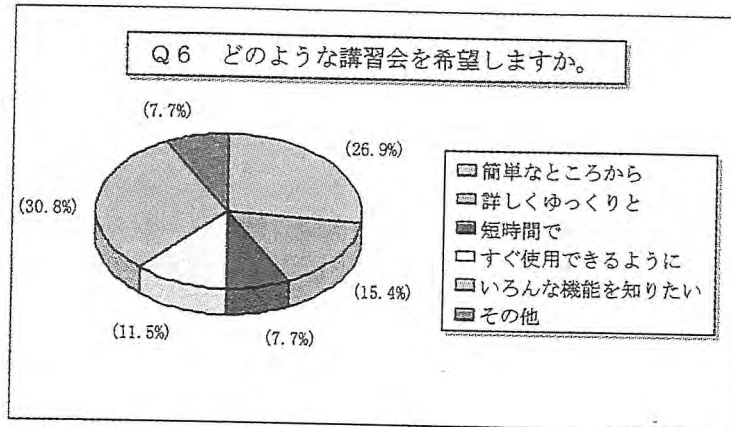
<アンケート2>



<アンケート3>



<アンケート4>



3 職場内研修の実施

このアンケート結果を踏まえながら、7月初旬から週1回1時間程度を目標に、特に(3)～(6)の項目に重点を置きながら研修を行った。

- (1) パソコンとは何か?
- (2) E〇システムの使い方
- (3) マルチプランの入力及び印刷
- (4) プリンタの設定
- (5) ウィンドウズ入門
- (6) 「一太郎」を使った文書作成
- (7) 「ロータス1・2・3」を使った表計算の作成
- (8) 応用

研修の進め方については、全員が理解するまで何度も繰り返しながら行うことを前提にし、そして研修終了後は参加者全員がパソコンで業務を遂行できることを目標に行い、必要最小限の項目に絞って行ってきた。

#### 4 研修状況の解説

研修は、各ソフトを使用できる者が補助者として講師を助ける形を取り実施した。その状況を説明する。

##### (1) パソコンの基礎

「写真1」は、パソコン操作にあたって必要事項を講習している状況である。

<写真1>



##### (2) マルチプランを使用した表計算の作成

「写真2」は、青森局においてはマルチプランを使用しての照会等があり、署においてはプリンタの設定に難があると思われ、これに対応できる操作方法を実習している状況である。

<写真2>



(3) 一太郎入門

「写真3」は、「一太郎」を使って文書を作成しているところである。

<写真3>



このような研修を実施するほかにも、随時個人学習に努めるなど積極的な学習が行われ、日を迫うごとに操作者の拡大及びレベルアップを図ることができたものと思われる。

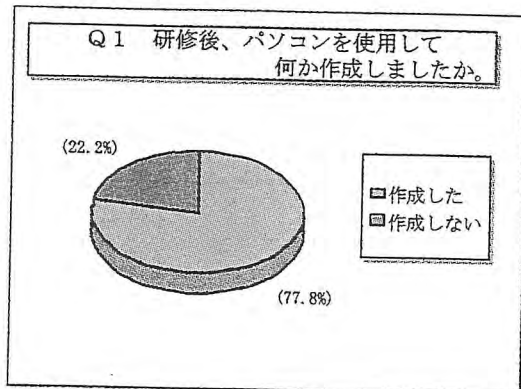
5 中間アンケートの実施

講習の成果をみるため終了後、再び今回の講習内容・要望事項等についてアンケートを実施し、以下の結果となった。

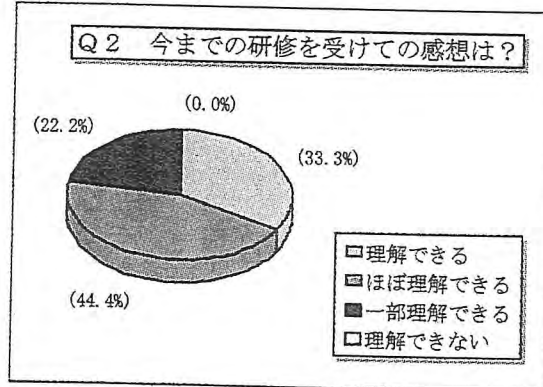
「研修後、パソコンを使用して何か作成しましたか」の問いに対し、約8割の者が何かを作成している実態が見受けられ、また「今後の研修に対し要望することは」という問いに対し、「用語の解説を加えながら」という答えが目につくようになった。

これは、パソコンに対して興味を持つことにより、更にいろいろなことを知りたくなった結果ではないかと考える。

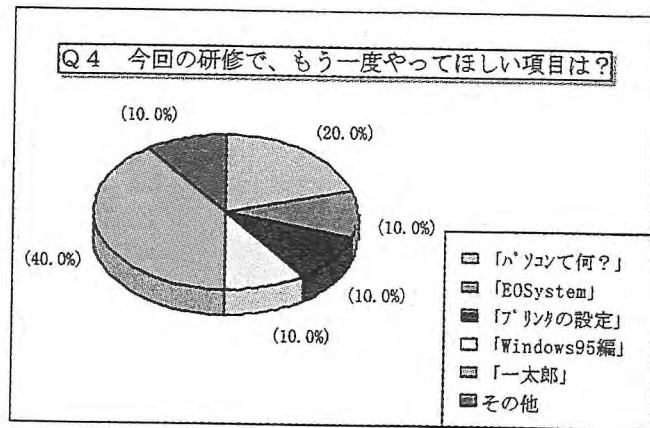
<アンケート5>



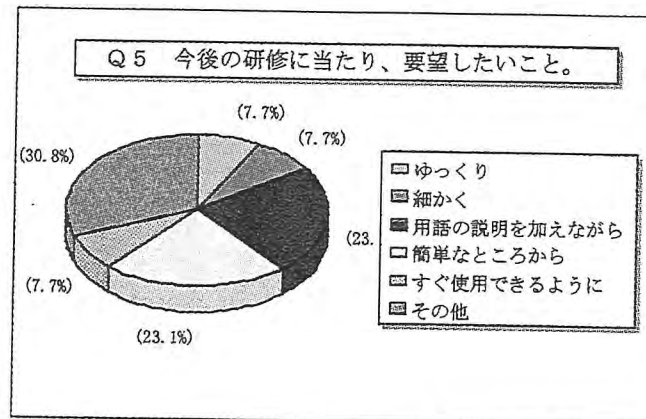
<アンケート6>



<アンケート7>



<アンケート8>



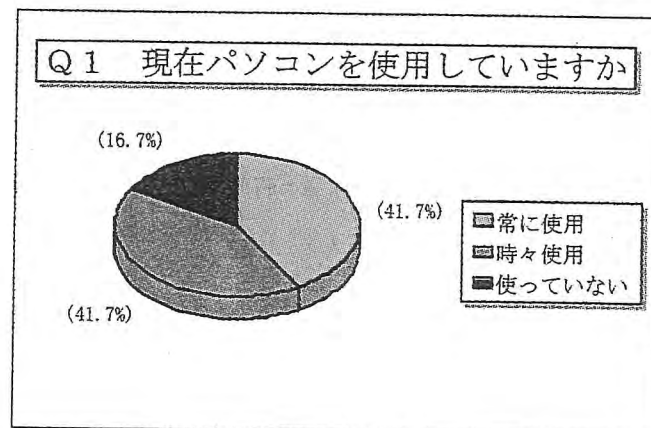
このアンケートを参考に、引き続き「ロータス123」の研修を実施した。  
 写真4はグラフを作成しているところであり、対外的な資料作成の際には必要なものであり、職員の要望もあり実施した。

6 最終アンケートの実施

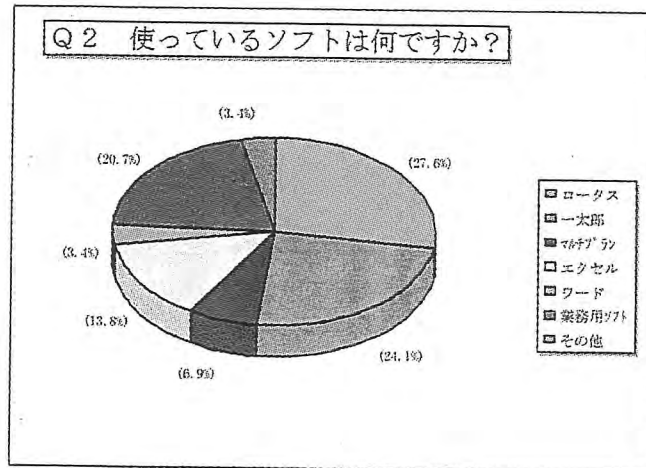
研修の最後に三度アンケートを実施、次の結果を得ることができた。

「現在パソコンを使用しているか」の問いに対し、「常に使用している」と答えた者が当初より倍以上増える結果を得たが、逆に1割強の者が使っていないと回答しており、「業務上使う必要がない」「ワープロで十分」と考えているのも事実である。

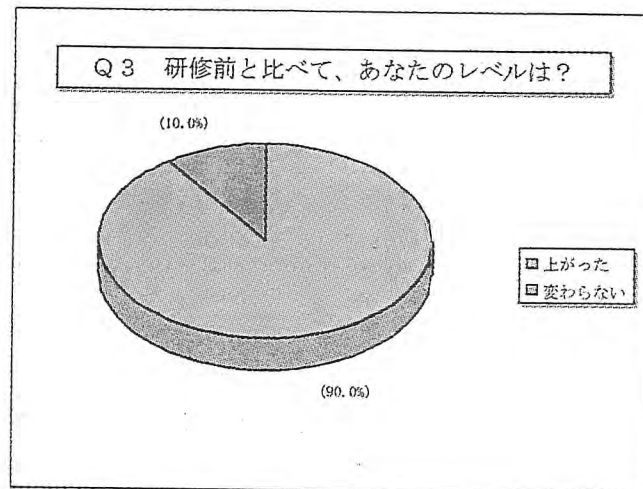
<アンケート9>



<アンケート10>



<アンケート11>



## 7 研究の結果

このように、当署では入力のみ可能という者が多かったが、今回研修会を実施することにより意識的にも使用者のレベルが上がっているのが見られ、当初目標とした成果を得られたものと考えている。

また、「操作したくても方法が分からない」、「壊れたらどうすればよいのか」等従来から見られたパソコンに対する恐怖心を少しながら取り除くことができたのではないかと考えており、パソコンの利用拡大を図るためには、まず何よりも「さわること」「さわらせること」が必要であり、また、1回目のアンケート調査の中にもあるように、全員が研修に参加するという意志を表示したことは、少なからずパソコンに対し興味を持っている確かな証拠であり、いかにしてそれを伸ばしてやるかが大きなポイントになると考える。